教える行動が行動の拡大に与える影響

The effect of teaching on the expansion of behavioral repertories

○椎原 彩葉　和田 千鶴　高山 仁志　中鹿 直樹

○Ayaha SHIIHARA, Chizuru WADA, Hitoshi TAKAYAMA, Naoki NAKASHIKA

（立命館大学 人間科学研究科）

Graduate School of Human Science, Ritsumeikan University

Key words:教育行動，行動の拡大，学生ジョブコーチ

目的

立命館大学では，特別支援学校に通う生徒を対象に，職業実習として模擬喫茶店舗を用いた学生ジョブコーチ（以下 SJC）による支援が行われている。この支援は生徒の「できる」を発見し記述可能なことが利点である（中鹿ら, 2013）。本研究では，業務の中に新人教育を取り入れることによる対象者の行動の拡大について検討した。

方法

場所　立命館大学構内に設置された模擬喫茶店舗

期間　X 年 9 月 Y 日～X 年 9 月 Y+4 日の計 5 日間

対象者　特別支援学校高等部の A（女性，2 年生）であった。また，職業実習には同学校の B（男性, 2 年生）も参加していた。

倫理的配慮　実習を行う前に特別支援学校の教員と対象者 2 名の保護者に実習についての説明を行い，書面にて実習参加への同意を得た。

手続き　対象者は接客や対象者が考えたメニューにある品目を作るための手順書のもとカフェ業務の全てを行うよう説明を受けた。実習初日に 2 名の SJC(C,D)のうち C が新人として紹介され，D は C に業務を教えるよう対象者に教示した。2 日目からは業務を教える手順書と C の成長を記録するシートを取り入れ，業務開始前に C に作り方を教えることもあった。全ての介入が終了した後，実習に対する否定的な発言，自分を卑下する発言，もしくは 2 回以上の業務についての確認を「不安を表す言動」，実習や自分の行動に対する肯定的な発言，もしくは他者に自分を頼るよう教示する行動を「ポジティブな言動」，他者への言語賞賛や拍手を「賞賛」，業務について説明する，見せる，初めての業務に挑戦するよう促す，もしくは勇気づける行動を「教育行動」と定義として，日毎に A のそれぞれの行動の生起回数を記録した。

結果

Figure 1 は A の賞賛と教育行動の推移を示す。A は手順書通りに教えるだけでなく自分なりの工夫を伝える，見守る，ヒントを与える，積極的に挑戦する機会を与えるなど，教育行動の増加と拡大が確認された。また賞賛について，初めは C の成長を記録するシートへの記入や拍手が主な賞賛であったが，C の細かな成長箇所を伝える行動，他者を C の取り組みに注目させたうえで賞賛する行動，C が喜ぶのに一緒に喜ぶ行動があらわれた。Table 1 は A の「不安を表す言動」と「ポジティブな言動」の生起回数を示す。初日は「こわい」「私はあんな風にできない」といった否定的な言動が目立っていたのに対し，教育行動をきっかけに，不安がる C に「一緒に頑張りましょう」「見守っているから大丈夫です」といった A が自分自身を信じているために発せられる励ましの言葉がみられるようになった。

Figure 1　A の賞賛と教育行動の推移

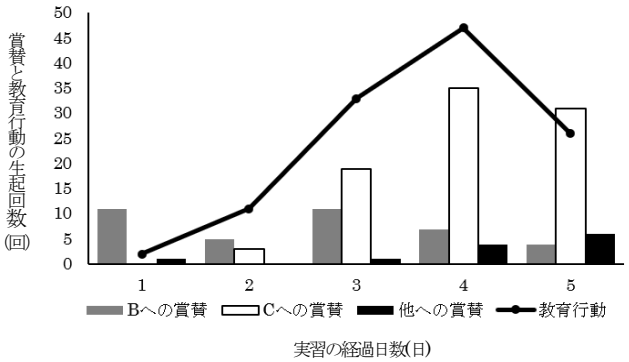


Table 1　A の言動の生起回数

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
不安を表す言動	55	5	1	2	0
ポジティブな言動	8	11	14	18	16

考察

本研究では教育行動を取り入れることにより，A の教育行動，賞賛がともに増加し行動の拡大がみられた。また不安を表す行動の減少やポジティブな言動の増加から，自己効力感に影響を与えた可能性も考えられた。しかしながら，B や他のスタッフへの賞賛が増えなかったことは，C の喜びが A の教育行動への強化子となっていた可能性を示しており，賞賛対象の拡大が今後の課題となる。

引用文献

中鹿 直樹・尾西 洋平・小島 遼・林 炫廷・望月 昭・土田 菜穂 (2013). プロファイリングからポートフォリオへ――学生ジョブコーチの実践から支援をつないでいくための「情報」について考える――対人援助学会第 5 回年次大会発表論文集, 30.